令和５年度第２回神奈川県公私立高等学校協議会
議　　事　　録

１　日　　時　　令和５年８月３日（木）
10時00分～11時00分

２　場　　所　　神奈川県私学会館　４階　講堂

３　出席委員等　　田沼　光明　　大澤　一仁　　竹内　博之　　柏木　照正

川名　稔　　吉田　和市　　宮村　浩文　　五味　博(代理)

鈴木　史洋　　山田　ふみ子　渡貫　由季子　松田　哲治

加藤　俊志　　鴨下　博厚　　川名　大介

（敬称略）

座長（山田委員）

皆様おはようございます。お暑い中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、「令和５年度第２回神奈川県公私立高等学校協議会」を開催します。私は私学振興課長の山田と申します。どうぞよろしくお願いします。開催にあたりまして、神奈川県公私立高等学校協議会の設置及び運営に関する要綱第４条第２項に基づき、座長の互選をお願いしたいと思います。従来より私立学校所管課長である私学振興課長が座長を務めさせていただいております。今年度も同様に私学振興課長が座長を務めるということで、ご異議ありませんでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それでは、私が座長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。なお、本協議会は原則公開とされております。取材、傍聴者等については、既に入室いただいておりますので、ご承知おきください。また、本日取材に来られております神奈川新聞社の方から、冒頭、写真撮影をしたいと申し出がありましたが、こちらについては御了解ということでよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

神奈川新聞社の方、写真撮影をお願いします。（写真撮影後）ありがとうございました。それでは議事に入ります前に、今年度新たに委員またはオブザーバーになられた方をご紹介します。お手元の資料の「資料１」に委員名簿がついておりますので、こちらをご覧ください。まず、神奈川県私立中学高等学校協会　監事　吉田和市委員です。

吉田委員

吉田です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）

続きまして、神奈川県教育委員会教育局　指導部高校教育課長　渡貫由季子委員です。

渡貫委員

渡貫です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　続きまして、横須賀市教育委員会事務局　学校教育部教育指導課長　鈴木史洋委員です。

鈴木委員
　鈴木です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　続きまして、神奈川県公立中学校長会の代表　松田哲治オブザーバーです。

松田オブザーバー
　松田です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　続きまして、神奈川県立高等学校長の代表　加藤俊志オブザーバーです。

加藤オブザーバー
　加藤です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　続きまして、神奈川県ＰＴＡ協議会の代表　川名大介オブザーバーです。

川名オブザーバー
　川名です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　よろしくお願いいたします。なお、本日は、川崎市教育委員会事務局　学校教育部指導課長　古俣和明委員の代理として、五味博担当課長が出席されております。

川崎市　五味担当課長
　五味です。よろしくお願いします。

座長（山田委員）
　このたび、既にお手元に配付されておりますが、「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から７月24日付けで要請文書が提出されています。要請文書の写しを机上に置いてありますのでご確認ください。文書を提出された方から口頭陳述の申し出がありましたので、議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思いますがいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それでは懇談会の代表の方、会議の時間もありますので恐れ入りますが、３分以内で陳述をお願いいたします。３分を超えますと大変恐縮ですけれども、お声がけさせていただきますのでどうぞご了承ください。それではお願いいたします。

陳述者

かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会の保永博行と申します。（資料説明）

座長（山田委員）

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。まず、議題の「令和６年度の「高等学校生徒入学定員計画」の策定について」です。例年、当協議会において、翌年度の公私の入学定員計画に係る協議を行い、公私間の合意を得た上で、その結果を「神奈川県公私立高等学校設置者会議」に報告しております。協議に入る前に、私から昨年度までの定員協議の経過等について、簡単にご説明いたします。定員計画につきましては、平成22年度から３年間は、公立中学校卒業予定者の６割を全日制公立高校の入学定員とする「基本比率」により策定しておりましたが、平成25年度定員計画策定時に見直しを行いました。その際、比率による定員割り振り方式を採用した経緯や、これまでの実績、進学率の推移等を踏まえた上で、「公立の定員枠のみを決める方式」から、「公私がともに責任を果たす方式」へと見直す必要性について議論がなされました。その結果、平成25年度定員計画は、公私がこれまでの実績、施設や教員の規模等を踏まえて、全日制進学率の向上の視点のもとに、公私各々が実現を目指す定員目標を定め、その実現に向けて最大限努力することを記載して策定いたしました。これにより、全日制進学率は上昇し、不本意入学者数も減少するなど一定の効果がみられたことから平成26年度定員計画以降は、同様の方式により策定をしてきました。昨年度までの経過については以上となります。

続きまして、令和５年度入学者選抜の結果を踏まえまして、昨年度に策定した計画の検証を行いたいと思います。それでは、令和５年度入学者選抜結果について、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

それでは、資料の説明をさせていただきます。（資料３～資料３－５を説明）

座長（山田委員）

ありがとうございました。ただいま、令和５年度入学者選抜結果について説明がございましたが、昨年度に策定した定員計画を踏まえて、公立・私立それぞれに入学者選抜結果に対する評価をお願いしたいと思います。まず公立側からお願いいたします。

渡貫委員

公立の方は令和５年度入学者選抜では、２年続けて公立中学校卒業者が増えるという中で、公立として前年から400人増やして、定員目標を40,750人とさせていただきました。令和５年度県内公立高校の全日制進学者が、今説明のありましたとおり、39,973人であり前年と比較して391人増えました。ただ、定員目標には777人届くことができず、公立としては厳しい数字であったと認識しております。

座長（山田委員）

ありがとうございました。それでは私学側いかがでしょうか。

田沼委員

私学といたしましては15,000人という数を出させていただいたわけですが、若干ですが上回る数が取れたということで、大変これはいい事だと思っております。ただ、資料を見ますと、後で議論があるかもしれませんが広域通信制ですか、通信制の数がすごく多く、年度比較におきましては上昇しているということですね。ここでも問題のひとつにはあるのかなと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございました。その他、何かご意見ある方ご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

竹内委員

竹内です。よろしくお願いします。今年度私学は15,105人という募集人数に対して、県内では15,000をわずかに超えて15,050人入学でしたけれども、実は県外等含めると16,101人という数字が見て取れます。ですから正直、多少しか増えていないようですが、県外からの入学者も結構いたということで私学としては、これは大成功であったと思っております。以上です。

座長（山田委員）

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。それでは、後でも結構ですので何かご意見ありましたらお願いいたします。続きまして、定員計画の策定方式というところで、令和５年度の定員計画は、冒頭説明いたしましたとおり、「公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式」に変更してから 11 回目となる計画でした。この方式について、改めてご意見をお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。公立側、よろしくお願いいたします。

渡貫委員

引き続きこの方式でお願いしたいと考えております。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。私学側いかがでしょうか。

田沼委員
　私学側もこの方式で進めることが望ましいと思っております。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。横浜市、川崎市、横須賀市の教育委員会の方いかがでしょうか。

宮村委員
　横浜市です。今、令和５年度入学者選抜につきまして様々な角度から資料作成いただいて、それについて意見を賜ったところです。継続して通信制を希望する生徒が増えている傾向がある中で、全日制進学率が昨年度に引き続き減傾向になっております。それでも、全体として全日制の進学率がある程度保たれているというのは、公私それぞれが定員目標の達成に向けて、各校の取り組みを進めていると考えることができると思います。引き続き、公私それぞれが実現を目指す定員目標を設定する方式により決定された定員によって、公私それぞれが定員目標の実現に向けて努力していくことが大切であると考えております。

座長（山田委員）
　それでは、川崎市お願いいたします。

川崎市　五味担当課長
　川崎市です。これまでの委員の皆さまから色々なご意見いただきましたけれど、川崎市といたしましてもこれまでの経緯を勘案いたしまして、一定の成果が見込まれてきたと感じております。令和６年度定員計画の策定にあたっても、令和５年度の定員計画の策定方法を継続することが必要ではないかと考えております。また、川崎市は県と中学卒業生の増減の推移が違ったりしますので、その辺のバランスも考えて今後、定員の策定にあたっていただけたらと思っております。以上です。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。横須賀市お願いいたします。

鈴木委員
　横須賀市も、公私それぞれが実現を目指す定員目標を設定する方式で、定員についてお願いできればと思います。以上です。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。オブザーバーの方もご意見等いかがでしょうか。

加藤オブザーバー

オブザーバーの加藤です。公立の方ですけれども、先ほど定員目標を達成できなかったというところですけれども、一方で高倍率の高校、それからまたちょっと定員に満たなかった高校もありまして、それぞれいわゆる魅力の発信によって、その辺を改善していくべきだと思います。この方式については公私とも目指す定員目標を設定するという方式で結構かと思います。以上です。

松田オブザーバー

中学校長会からですけども、先ほどから話題になっている広域通信制についてなんですが、実は、様々な学校生活を送っている生徒が増え、一定程度ニーズがあることは事実だと思っております。ただ、それぞれの学校によってどうカリキュラムを充実させていくかとか、あるいは不登校の状態であったり、様々な事情があり学校に来られていなかった子をもう一度引き上げていくかというところについては、それぞれの学校で改善をしていかなくてはいけないところかなというところで、これは説明にいらっしゃるところに中学校側としても個別にご意見を申し上げているところです。以上です。

川名オブザーバー

川名です。全日制の公私立に向けて、令和５年度実績を拝見させていただくなかで、やはり令和４年度の結果を踏まえた中でも確かに中学生の卒業生、新卒生が増えている状況ではあるにもかかわらず、入学者が100パーセントを超えているという数字に関しましては、やはりこちらの協議会の皆さまのご尽力があるのかなと。ただ多様的な勉学の中で通信も含めたGIGAスクール等ございますので、その辺も含めて、まだまだやはり義務教育からなる高校生の実現について、様々な議論をしていただければと思います。よろしくお願いします。

鴨下オブザーバー

私学保護者会の鴨下です。人数の決定方法については保護者の立場として申し上げることではないと思うので控えさせていただきますが、ここのところの私学の大変な人気といいますか、私学展とか見ておりますと大変希望者が多い状況になっております。その一方で色々な形で私学に進学を希望する生徒に対しての経済的な支援みたいなことは充実してくださっていると思いますが、まだそれが理由として私学に進学できなかったという方が一定数いらっしゃるということは、ちょっと驚きです。そういう支援を色々な形でしてくださっているということをもっとお伝えいただく努力をしていただければと思っております。以上です。

座長（山田委員）

ありがとうございました。昨年度までの策定方式については、一定の成果があったという評価と思いますけれども、令和６年度の定員計画においても、引き続きこの策定方法を継続

することでよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それでは、令和６年度定員計画の策定にあたっては、昨年度までの策定方式を継続する方向であることで確認をさせていただきました。続きまして、令和６年度の定員計画についてですけれども資料の４をご覧ください。こちらが令和６年度の定員計画の策定についてですが、これにつきまして協議いただく前に資料の４－２以下が資料４に記載しました内容の参考となる資料でございますので、資料の４－２から資料の４－10について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

それでは、資料の説明をさせていただきます。

（資料４－２～資料４―10を説明）

座長（山田委員）

ありがとうございました。色々な資料が出ておりますので、資料の内容につきまして、疑問、ご質問等ありましたらご発言をお願いします。特によろしいですか。また、途中でも結構ですので、何か資料の中で疑問点などございましたら、発言をお願いいたします。それでは協議に入りたいと思います。資料４をご覧ください。こちらは令和５年度の定員計画をベースに、「年度」の数字ですとか「公立中学校卒業予定者数」などを令和６年度用に修正するとともに、参考資料のデータを時点更新したものです。この資料に基づきまして、令和６年度の定員計画に記載する内容について、確認をさせていただきます。まず１ページのところですけれども、冒頭の２段落目の「新型コロナウイルス感染症」に関する部分についてです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえまして、令和３年度の定員計画から、こちらの感染症の状況を踏まえた対応についての文を追加したところです。今年度は５月に感染症法上の位置づけが５類に移行しましたけれども、令和６年度定員計画においても、引き続き記載することについて、ご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

竹内委員

「なお」から下の４行の部分ですが、毎年少しずつ修正をしておりますが、コロナの感染も昨年と違って第５類になったという説明も今ありましたとおり、まだ感染のリスクがなくなったというわけではないですけれども、もう少し表現を現実的にやわらかくしてもいいのではないかと思います。昨年のこの段階では、また第何波がやってくる、クラスターも発生するのではないかということで、この表現になったと思うのですけれども少し良い方向に状況は変わってきていると思うので、ここはもう少し現実的なやわらかい表現に変えたらどう

かと思うのですがいかがでしょうか。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員
　公立も今、竹内委員からご意見あったとおり、ここのあたりの表現はもう少し簡潔な形に見直しても良いのではないかと考えます。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。それではこちらについては、一旦事務局で持ち帰りをさせていただき、どういった文章が適当かというのは検討させていただきたいと思います。それでは続きまして、１の１ページ目の「１　基本的な考え方」についてです。この部分は、例年継続してきました「三つの視点」、こちらの①、②、③なんですけれども、これを引き続き尊重しつつ、平成30年度に、「（３）その他」といたしまして「私学の役割」として、「学則で定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め」という文言を追加したところです。令和６年度の定員計画の策定につきまして、この「基本的な考え方」について、ご意見ございますでしょうか。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員
　特にございません。

座長（山田委員）
　私学側いかがでしょうか。

田沼委員
　この考え方でお願いしたいと思います。今ありました私学は学則で定められた収容定員というものが決まっておりますので、状況に応じて数の増減はいたしますけれども、なかなか大幅に動かすのは難しいので、その点はご理解いただきたいと思います。

座長（山田委員）
　ありがとうございます。その他ご意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。それでは、こちらについては、このまま継続ということで今、確認をさせていただきました。続きまして２ページの「２　定員計画の策定」についてです。こちらにつきましては「令和６年度の定員計画の方式」「実現を目指す定員目標の設定の考え方」などを記載しております。定員計画の策定方式につきましては、先ほど、昨年度の方式を継続する方向性を確認させていただいたところです。また、（１）の令和６年度定員計画の方式の最後の「・」のところ、なお公私の募集計画については、この定員計画に見合ったものとして10月までには公表するとしております。こちらについては、例年10月までに公表するということで記載されておりますけれども、何かこの点についてご意見はございますでしょうか。公立側いかがでしょう

か。

渡貫委員

特にございません。

座長（山田委員）

私学側いかがでしょうか。

田沼委員

このとおりでよろしくお願いいたします。

座長（山田委員）

それではこちらにつきましても、同様に10月までに公表するということで、このままの記載にしたいと思います。続きまして資料の３ページをご覧ください。３ページの中段にあります「３　今後の総合的な対応」についてです。この部分については「１」に書いてあります「基本的な考え方」に記載した各項目の具体化を目標として、

(1) 経済的な課題を抱えた生徒の受け入れ対策
(2) 不登校生徒等の受け入れ対策
(3) クリエイティブスクール
(4) 定時制等の受け入れ対策
(5) その他の対策

を記載しております。この部分について、例年、若干の表現の仕方は変更している時もあるのですけれども、項目としてはこういった形になっております。これにつきまして何かご意見ございますでしょうか。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員

この形でお願いできればと思います。

座長（山田委員）

私学側はいかがでしょうか。

田沼委員

この形でよろしくお願いします。

座長（山田委員）

こちらについては、その時々の情勢に応じてといったところがあるのですけれども、何か他にご意見がある方いかがですか。それでは、後でも結構ですので、ご意見がありましたらご発言お願いします。続きまして、資料４ページの「４　昼間の時間帯で学ぶ進学率、昼間進学率の活用」についてです。この部分は昨今の中学生の進路選択の多様化等を踏まえまして、全日制進学率と併せて昼間の時間帯で学ぶ進学率という指標を活用することを

例年記載しております。最初に説明がありました資料３－２の全日制の進学率の右隣に、昼間の時間帯に学ぶ進学率（昼間進学率）を載せてありますけれども、これについても活用するといことで例年記載しておりますが、これについてご意見ございますでしょうか。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員

引き続きこの形でお願いしたいと思います。

座長（山田委員）

私学側いかがでしょうか。

田沼委員

昼間の進学率は全日とは言わないが、全日の実態をよく表しているものと思いますのでご活用をお願いします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。続きまして、資料５ページをご覧ください。こちらが「令和６年度公私立高等学校全日制入学定員の目標設定の考え方及び計画」となっております。こちらがまとめの部分となりまして、今は空欄となっておりますけれども「・」の３つ目が公立、それから、その下が私立ということで、公立・私立の具体的な入学定員の目標人数を記載するところです。こちらに令和６年度の目標人数を入れていくことになるのですけども、本日は令和５年度の入学者選抜の結果を確認したところですので、おそらくこの場で、公立何人、私立何人というのはお互いまだ決まっていないところだと思いますので、これを双方が持ち帰っていただいてしっかりと検討していただき、次回の協議会において協議をさせていただきたいと考えますがよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、今の目標数値は次回ということになったのですが、文言のところで何か振り返っていただいて、ここを直した方が良いなどご意見はよろしいでしょうか。何かありましたら、お聞かせいただければと思います。

委員一同

なし。

座長（山田委員）

では、こちらにつきましても次回で結構ですので、何か文言のところで、ここはこう直

した方が良いとか、ご意見がありましたら次回お聞かせいただければと思います。それでは本日の協議の結果について整理させていただきます。公私それぞれの立場からいろいろなご意見いただきましたけれども、令和６年度の定員計画につきましては、昨年度に引き続き公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設置する方式により策定するということで公私の考え方が一致していることが確認できました。そこで公私各々が全日制進学率向上を推進するために目指す令和６年度入学者の定員目標をご検討いただいた上で、もう一度お集まりいただくようお願いしたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。では、大変恐縮ですけれども、９月の設置者会議の報告を目指しまして、次回の協議会については８月下旬に開催で調整させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。なお、先程ご意見がありました定員計画の１ページ目の新型コロナウイルス関連については、ご意見を反映する方向となりましたので事務局で修正案を作成の上、次回の協議会で提示させていただきたいと思いますけれども、こちらもよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。なお、議題についての協議は以上となりますが、最後に何かご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。

田沼委員

先ほどから広域通信制への進学者が多いということが話題になっております。不登校の生徒等も多くなってきておりまして、ある程度のニーズがあることは私共もよくわかっているところで、通信制の意義もあると思っています。ただ、募集時期の問題があります。この資料の最後に選抜の申し合わせとかいろいろありますが、この公立中学校と私立高校では、中学の教育の内容を充実するために私立高校の募集時期をなるべく遅らせるという形で１月、２月とする協定をしているわけです。ところが広域通信制は、夏くらいから募集をして、いろいろ聞くところによると９月くらいには合格者を出しているところもあり、これは大変な問題だと思います。全日制進学率を上げるということを我々は望ましいことと思い、考えてやっているのですが９月に合格者がでると、その人は当然のことですが全日制を希望しません。この資料にはありませんが、県教育委員会で全日制希望調査を実施されていると思いますが10月頃でしたでしょうか。

渡貫委員

10月になります。

田沼委員

10月に通信制へ決めている子どもがでるという現状があり、希望調査ではもう全日制希望とは絶対に答えない。全日制は、募集時期という問題で難しい問題がでてきているという感じがします。広域通信制は県の管轄外ということもありまして、なかなか話をもっていけないのですが、ただ私学の方では私学の全国組織、私立中高連が文科省に対してそろそろこの問題について討議を向けていく次第であります。全国のレベルでいろいろなことを考える機会を設けていかなければならないのかと思います。これは蛇足ですが、他県の県立の高校が他県で募集することがまかり通っている。鹿児島のある学校が東京都と大阪府で募集し、問題となった。この時も募集時期を守らない。要するに東京都で決めた募集の時期、東京が中学の教育を考えて決めた募集時期よりも早い時期に募集してしまう。こういう他県を荒らしまわるようなことが起こっていることも考えなくてはならない。この学校では今は募集が少なくなっているようで問題にはならなくなりましたけれども、県立高校が他県で募集していることがそもそもどうなのでしょうか。このこと自体、県民が怒らないのかなと思ったら、村おこし、町おこしで県民が諸手を挙げて賛成しているとか、とにかく信じられない状況があるようです。そういうようなことが今、起こっていると考えながら、全国でも今まででは考えられないようなことが起こっているという情報を入れさせていただきます。

座長（山田委員）

ありがとうございました。

竹内委員

公立私立での定員の目標値を次に提出する形となると思うのですが、やはり全日制進学率をお互いに出した段階でも90％を超えていたい。今年、若干割ってしまったのですが、こういうような目標数値をお互いに提示したいと思いますが、公立もよろしいですか。是非そうしたいです。

座長（山田委員）

ありがとうございます。他に何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。それでは、議題についての協議は以上となります。田沼委員、竹内委員からご発言がありましけれども、議題とは別で結構ですので、その他について、何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

委員一同

なし

座長（山田委員）

それでは、本日の議事は全て終了いたしました。委員の皆様、オブザーバーの皆様、大変お忙しい中、お暑い中、ご出席いただきまして本当にありがとうございました。次回は８月下旬ということで、ご連絡をさせていただきます。それでは、これをもちまして令和５年度第２回神奈川県公私立高等学校協議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。